

いけづき せんぞくはちまん 名馬池月と千束八幡神社

名勝洗足池公園-③

所在地：千束八幡神社 南千束2-23-10

交通アクセス：東急池上線洗足池駅から徒歩5分

公開の有無：常時公開（神社への参拝の際はご配慮をお願いします）



千束八幡神社



洗足池を見つめる池月像

洗足池西側にある千束八幡神社は、古くは貞観^{じょうがん}2年（860）に大分県の宇佐神宮（八幡神の総本宮）から分霊^{ぶんれい}を勧請^{かんじょう}し、洗足池周辺の鎮守^{ちんじゆ}となったという由来の神社です。当神社には、平安時代後期に清和源氏^{せいわげんじ}が八幡神^{うじがみ}を氏神として信仰したことから、源義家^{みなもとのおよしえ}や頼朝^{よりとも}に関する伝承が残されています。

例えば、当神社は別名「旗上げ八幡」とも呼ばれていますが、これは、頼朝が相模国（現在の神奈川県）の「石橋山の戦」に敗れ、安房^{あわ}（現在の千葉県南部）に逃れたあと、鎌倉に向かう前に洗足池付近に立ち寄って陣を張ったとの言い伝えに由来しています。

さらにこの時、一頭の馬が現れ頼朝の手に渡ります。その柄が、青い毛に白い斑点で、まるで池の水面に映る月のようだったため、「池月」と命名したといわれています。この伝承にちなみ、現在の東急大井町線北千束駅は、昭和3～5年（1928～30）の間「池月駅」という駅名でした。

池月はその後、頼朝の家臣の佐々木高綱^{たかつな かし}に下賜されます。高綱と池月は、源範頼^{のりより}、義経^{よしつね}が源（木曾）義仲^{よしのなか}の軍勢を破った「宇治川の戦」で、頼朝が同じく区内の馬込^{まごめ}で手に入れた名馬磨墨^{するすみ}に乗る梶原景時^{かじわらかげすえ}と、先陣争いを繰り広げました。この出来事から、池月と磨墨は名馬として全国に知れ渡り、現在でも北は青森県、南は鹿児島県まで、大田区以外にもこの2頭に関する伝承が各地に残っています。

千束八幡神社境内のすぐ北東には、池月の銅像が建ち、洗足池を見つめています。また、目の前にかかる池月橋は平成28年（2016）に架け替えられました。全国でも珍しい三連太鼓橋^{さんれんたいこばし}で、昔にタイムスリップしたような風景が広がり、毎年5月には和楽器の音楽イベント「春宵の響^{しゅんしやう ひびき}」が開催されます。洗足池公園に来園された際は、ぜひフォトスポットにしてみてくださいはいかがでしょうか。